

照屋清之介¹・平久亮菜²・有馬ほずみ³：奄美大島におけるイトカケガイ科2種の打上記録
Shinnosuke TERUYA¹, Akina TAIRAKU² and Hozumi ARIMA³ : Stranding record of two species of Epitoniidae in Amami-Oshima Island

琉球列島におけるイトカケガイ科の報告は近年盛んに行われており、その多様性の一端が明らかにされつつある(久保 2000; 中山 2007, 2010, 2013a, 2013b; 名和 2011). 奄美大島のイトカケガイ科については、中山(2007)により5種の日本初記録種が報告されている。今回、著者らは奄美大島で打上採集を行った結果、日本初記録種と奄美大島初記録種の2種のイトカケガイ科の貝類が確認されたので報告する。検討に用いた標本は、東京大学総合研究博物館に保管した。

Epitonium (Librarisca) parvonatrix Kilburn, 1985

ミズヘビイトカケ(和名新称：日本初記録)(図1)

採集状況 2014年11月2日、鹿児島県奄美市笠利町大字須野、あやまる岬付近の砂浜にて有馬により2個体の死殻が打上採集された。

特徴 殻長は6.4mmで、殻幅は2.5mmである。殻は薄質で白色である。縦肋は細かく、規則的に密に並ぶ。縦肋の間には、弱く細かい螺条がある。殻口は縦肋により肥厚し、臍孔は閉じる。体層の肩部が一部欠損している。

備考 殻幅と殻長の割合は0.39であり、原記載の記述と一致する(Kilburn, 1985)。タイプ産地は南アフリカ共和国のTranskeiで、ホロタイプは砂浜で打上採集された。本種は台湾における分布も近年報告されており(Lee & Wu 2012)、奄美大島から台湾にかけて分布している可能性が考えられる。紀伊半島から報告されている*Rutellisca cophinodes*(Melvill, 1904)に類似するが、*R. cophinodes*は縦肋がより細かく多いことから区別できる(Nakayama 2003)。種小名の*parvonatrix*は、小さいミズヘビを意味するため、ミズヘビイトカケという新和名を与えた。

Cirsotrema (Cirsotrema) cf. cochlea (Sowerby, 1844)

ネジレチリメンニナ(図2 A-B)

採集状況 2013年2月21日に鹿児島県奄美市名瀬小宿の砂浜にて有馬により1個体の死殻が打上採集された(図2A)。また、2014年11月5日に鹿児島県奄美市笠利町節田の砂浜にて平久により1個体の死殻が打上採集された(図2B)。

特徴 小宿産の個体は殻長43.3mm、殻幅17.1mm、節田産の個体は殻長8.1mm、殻幅5.3mmである。殻は厚質で白色である。小宿産の大型個体は各層に1から2本、節田産の小型

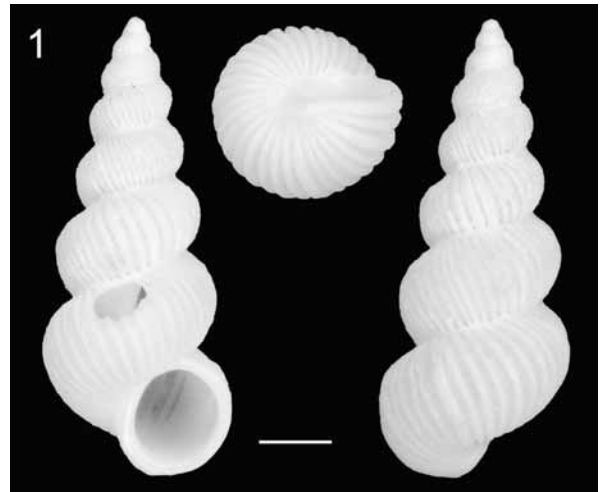


図1 ミズヘビイトカケ(新称)*Epitonium (Librarisca) parvonatrix* Kilburn, 1985. スケールは1mm.

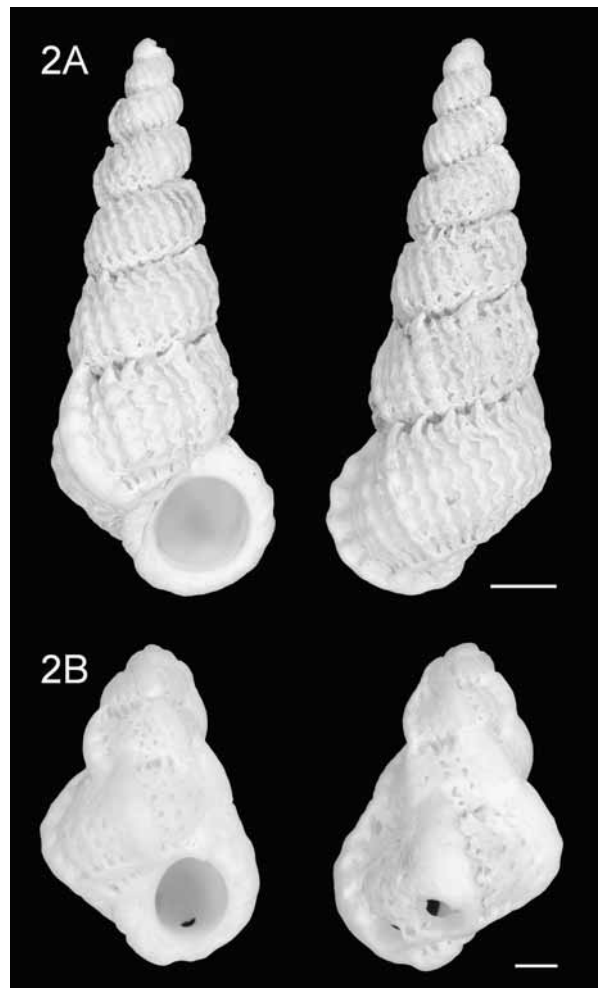


図2 ネジレチリメンニナ*Cirsotrema (Cirsotrema) cf. cochlea* (Sowerby, 1844). A. 奄美市名瀬小宿産. スケールは5mm. B. 奄美市笠利町節田産. スケールは1mm.

個体は各層に2から3本の太い縦張肋が不規則に現れる。縦張肋の肋間には縮緬状の縦肋がある。殻口は肥厚し、臍孔は閉じる。

備考 小宿産の大型個体(図2A)と節田産の小型個体(図2B)が同種であるか検討を行った。今回得られた大型個体の殻頂部が摩耗しているため、小型個体との比較が難しい。そのため、ネジレチリメンニナの日本初記録を行った中山(2013b)を参考に比較を行った。小宿産の大型個体はスペイン産の個体と類似しており(中山 2013b: figs. 5-6), 節田産の小型個体は沖縄本島産の個体と酷似している(中山 2013b: figs. 1-4)。したがって、今回得られた大型および小型個体は同種と見なした。ただし、中山(2013b)の用いた学名 *C. (C.) cochlea* の種は、Sowerby (1844: fig. 142) の図を見ると、肩部が角張り、縫合直下が段状になるため、同種と同定するには疑問が残る。また、*C. (C.) cochlea* を含む複数種は貝殻では区別できないことが指摘されており(Weil et al. 1999; García 2001), 分類学的再検討が必要だと考えられる。今回、学名に関しては近似種として同定した。

引用文献

- García, E.F. 2001. Three new deep-water epitoniid (Mollusca: Gastropoda) species from the southern Philippines. *Novapex*, 2(3): 109-114.
- Kilburn, R. N. 1985. The Family Epitoniidae (Mollusca: Gastropoda) in southern Africa and Mozambique. *Annals of the Natal Museum*, 27(1): 239-337.
- 久保弘文. 2000. 宜野湾市の貝類. 宜野湾市誌 第9巻 資料編8自然. 宜野湾市教育委員会文化課, 宜野湾.
- Lee, Y.-C. and Wu, W.-L. The Molluscan Fauna of Taiwan-Family Epitoniidae. 100pp. Biodiversity Research Center, Academia Sinica, Taipei.
- Nakayama, T. 2003. A review of Northwest Pacific epitoniids (Gastropoda: Epitoniidae). 143pp. Backhuys Publishers, Leiden.
- 中山大成. 2007. 奄美大島住用湾から採取されたイトカケガイ科の6種について. *ちりぼたん*, 37(4): 180-182.
- 中山大成. 2010. 紀伊半島沖および奄美大島住用湾から採取されたイトカケガイ科について. *ちりぼたん*, 41(1): 8-13.
- 中山大成. 2013a. 紀伊半島, 沖縄, およびタヒチから採取されたイトカケガイ科について. *ちりぼたん*, 42(1-4): 11-15.
- 中山大成. 2013b. 沖縄から採取された日本産新記録のイトカケガイ科の5種について. *ちりぼたん*, 42(1-4): 16-21.
- 名和純. 2011. 琉球大学資料館(風樹館)多板綱・腹足綱・掘足綱・頭足綱標本目録. 253pp. 琉球大学資料館(風樹館), 西原.
- Sowerby, G.B. (II). 1844. Monograph of the genus *Scalaria*. *Thesaurus Conchyliorum, or, Monographs of Genera of Shells*. 1: 83-108.
- Weil, A., Brown, L., and Neville, B. 1999. The wentletrap book. Guide to the recent Epitoniidae of the world. 246pp. Rome, Italy.
- (Received Sept. 1, 2015; accepted Oct. 23, 2015)

¹ 113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科

¹ Department of Earth and Planetary Sciences, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan

² 〒277-0802 千葉県柏市船戸1111-2

² 1111-2 Funato, Kashiwa, Chiba 277-0802, Japan

³ 〒894-0036 鹿児島県奄美市名瀬長浜町29-21

³ 29-21 Nagahama-cho, Naze, Amami, Kagoshima 894-0036, Japan